東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 7 月 17 日

スンナに従うこと・真似をするのではなく模範とすること

ムスリムの皆様。普遍的な教えイスラームの預言者である預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のメッセージとその示された模範は、やはり普遍的なものであるのです。預言者ムハンマドに従うことを命じ、預言者ムハンマドの振舞いには私たちへの素晴らしい模範が存在することを指摘しているクルアーンの言葉を見るなら、預言者ムハンマドに従い模範とすることが必要であるということに、信者が何らかの疑いを抱くことはできないでしょう。ところで模範にするとはどういうことでしょうか、どのようにそれを行なうことができるでしょうか。模範にすることと、ただ真似をすることの違いはあるのでしょうか。

模範にするとは、意識を伴う行動です。それを行なう人は、模範としているその人もしくは振舞いを、なぜ模範とすべきなのかを認識しています。真似とは、一般的にそのような意識を伴わない行為です。人は多くの場合、真似をしている人、あるいは振る舞いについてなぜ真似をしているのか自覚していません。模範とすることは特別なつながりから生じる振る舞いですが、「何かを、そこに秘められている理由、意図、英知、原理を考えることなく同じ事を繰り返す」という意味になる真似は、表面的で形式的に過ぎない行為です。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のスンナを正しく理解するためには、この違いに注意を払う必要があります。なぜならクルアーンは、盲目的に父祖の行いを真似する人々を非難し、真似をすることの害を指摘しているのです。従って私たちからは、預言者ムハンマドを真似することではなく模範とすることが求められているのです。

クルアーンは、預言者ムハンマドの優れた徳を備えた人格について言及していますが、その肉体的特徴、服装、食べ物の趣向、現世的な能力については特に触れていません。例えばクルアーンでは、「本当にあなたは、崇高な徳性を備えている」（筆章第 4 節）「信者に対し優しく、また情深い」（悔悟章 128 節）こと、控えめで（部族連合章 53 節）親切で優しい心を持っていることを伝えています（イムラーン家 159 節）。だが普通の人間的な行為についてはあまり言及していないです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。預言者ムハンマドご自身も、その振る舞いを盲目的に真似するのではなく、自覚を持って模範とすることを求められていました。例えば、教友たちと共に行なわれた礼拝でスリッパを脱がれた預言者ムハンマドは、他の人々もスリッパを脱いだのをご覧になられ、彼らになぜそのようにしたのかを尋ねられました。預言者ムハンマドがそうされたからした、と知られると、「私はスリッパが汚れていることに気がついたから脱いだのです」とおっしゃられ、彼らがその意図に注意を払っていないことを指摘されました。

預言者ムハンマドは「私の礼拝の仕方をご覧になった通りに礼拝を行なってください」といわれましたが、「私のような服装をしてください」「私のような食事のとり方をしてください」「私のように寝起きしてください」とはいわれませんでした。つまり、個人的な好みや洗濯を他者に押し付けられることはなかったのでした。例えば、ご自身に出されたイグアナの肉を、慣れたものではないからと理由で口にされなかった時、そばにいた人たちがそれを食べることには干渉されませんでした。

預言者ムハンマドの周囲にいた優れた友人たちも、盲目的な真似をしていたのではありませんでした。例えばウマルは、フダイビヤ条約においてムスリムにとって不利である条件が受け入れられていることについて預言者ムハンマドに抗議をしています。また預言者ムハンマドが偽信者たちのリーダーであったアブドゥラー・ビン・ウバイ・ビン・サルールの葬儀の礼拝を行ったことにも異議を唱えています。

また一方で、信仰においても、真似でしかない信仰ではなく、自ら探求した上での信仰が奨励されていることは非常に注意を引くものです。ただ、崇拝行為の形を理性や論理で見出すことはできないため、この分野では一定の模倣があり得るといえます。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のスンナを今日においても有益なものとするために、そのお言葉や振る舞いの背後に秘められた意図を正しく見出し、なぜそのお方を模範としているのか、ということも自覚している必要があるのです。